

10

患者さんへの話し方を工夫しよう⑥ 患者さんの 気持ちを探る感性を磨こう



本書では「患者さんへの共感」ということが繰り返し出てきます。「共感」するためにはまず患者さんの気持ちに気づかなければなりません。ここでは、患者さんの気持ちを探る感性は、臨床経験の長さとは関係なく若いドクターも持ち合わせていることを表すエピソードを紹介しましょう。

CASE

40年ほど前の話です。当時内科に入局したばかりのA医師は、L先生の外来に配属されました。L先生はいずれは教授かというほど優秀な人で、A医師が学生時代から尊敬していた人物でした。外来にはA医師のほかにも3人の医師が助手としてついていました。L先生は日ごろから厳

